

環境対応車 『ハイブリット車』が売れている。

「エコカー減税」や「補助金制度」など政府の支援策が効き出し「ハイブリッド車」など環境対応車の需要が新車販売全体をけん引している。

売れ筋の新型車に人気が集中する傾向が鮮明になる一方、従来車種、ガソリン高騰をきっかけに今まで好調に売れていた軽自動車も苦戦している。

現在の販売好調な車種の代表格は「ハイブリッド車」。7月の乗用車販売が前年同月比1割強のプラスになったホンダは、2月に発売したハイブリッド車「インサイト」が貢献している。

トヨタ自動車は5月に「プリウス」の新型車を発売。現在までに約25万台の受注を獲得し、6月にはスズキの「ワゴンR」やダイハツ工業の「ムーヴ」などこれまで売れ筋だった軽自動車をも上回り、初の新車販売1位となった。

スズキの「ワゴンR」やダイハツ工業の「ムーヴ」はエコカー減税や購入助成金の額が「プリウス」など登録車に比べて少ないことが響いているようだ。

トヨタに「売れる車だけを造れば良い」と言ったら「いや、そうはいきませんよ」とあいかわらず従来車や不人気車も造り続けている。販売が上向いているのは環境車を中心で、プリウスの好調をしり目にトヨタの販売店から「ほかの車種が全く売れない」との声もあるのだが、売れない車でも造り続けるというのだから、トヨタにはまだまだ余裕がありそうだ。

問題は、政府の補助金制度は2010年3月末までの時限措置のため、自動車業界は次期「民主党」政権にも「エコカー減税」や「補助金制度」の延長をお願いすべきだろう。

